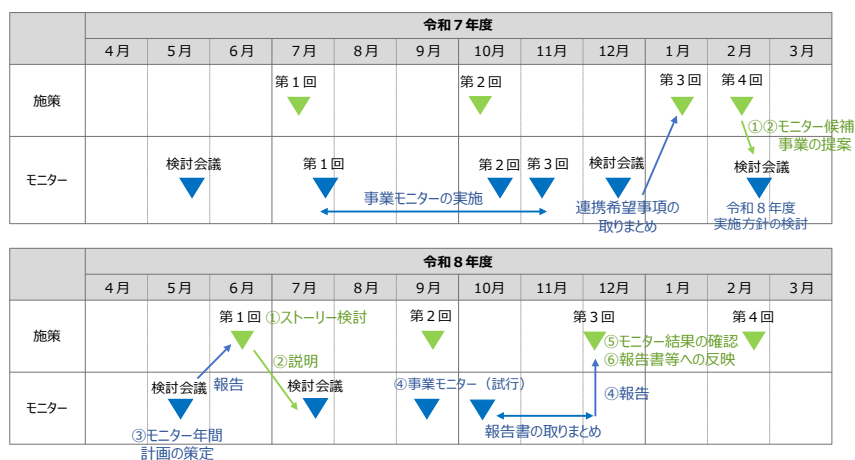
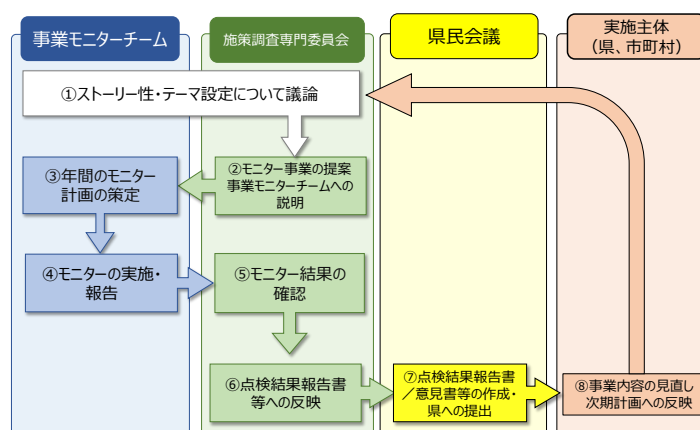


事業モニターチームとの連携について

1 経緯

令和6年度に実施した施策懇談会以降、事業モニターをより効果的に実施し、施策の点検・評価に県民意見を取り入れるため、施策調査委員会と事業モニターチームの連携について議論を開始した。令和7年度は、連携事項やスケジュールについて整理し、令和9年度以降の事業モニターを見据え、令和8年度に試行で事業モニターを実施することとした。

試行で実施する事業モニターについては、「針広混交林などの目標林型への誘導について」、「生息密度の高い地域におけるシカ管理について」をテーマに、「(1番事業) 水源の森林づくり事業の推進」及び「(2番事業) 丹沢大山の保全・再生対策」をモニターする。



2 事業モニターチームにおける課題及び課題への対応案

事業モニターチームの課題	課題への対応案（連携案）
県民会議委員に就任した3年間（2年間）で事業現場を見るようにと言われてもかなりハードルは高い。各事業のこれまでの経緯等が分からない。	ストーリーの検討＋ 事前の共有
評価のポイントが分からない。	評価の視点などを整理＋ 事前の共有
モニター箇所の選定から携わりたいと考えているが、どのような箇所を選定してよいか悩むため、専門家の方より候補地の助言などをいただけないか。	テーマ（候補）の選出＋ 事業モニターチームで検討

3 ストーリー検討等の方向性

- ・ これまで事業に取り組んだ成果として、アウトプットだけではなく、アウトカムでどのように変わったかを確認できるようになってきた。
⇒①アウトプットと②アウトカムによる成果を記載。
- ・ 事業モニターの実施に当たり、施策調査専門委員会の方から意見を聞く、あるいは事務局からこれまでの経緯や課題、選定箇所の理由などを共有いただき、事業モニターの視点や評価ポイントなどについても意見交換ができる場が必要。
⇒・ 事業全体の流れ（事業実施に至った経緯や当時の問題点（課題）、対策をした結果（事業実施後＋数年後））を示す。また、モニターの視点を明確にするため、これまで県民会議で整理した評価の流れ図等により専門家が見て欲しいポイントなどを共有する。（ただし、事業モニターはあくまで県民目線の評価となるようにする必要がある。）
 - ・ 事業モニター実施前に有識者からストーリー等の説明を行う。
- ・ 今後最終評価を確定していく必要があるため、そこにできるだけ反映できるような情報（評価のために必要な情報）を事業モニターの結果としていただけるとありがたい。
⇒最終評価報告書（暫定版）や点検結果報告書の内容を記載する。
- ・ 事業がうまくいっている場所とうまくいっていない場所の両方をモニターしたい。
⇒植生保護柵内外の比較にて混交林化の状況等を確認する。
- ・ 県内の森林全体のどの程度が順調にしているのかといったデータも必要である。
⇒事業モニター当日にモニターできる箇所は1～2箇所のため、県内全体の状況が分かるデータを記載する。

4 対象事業のストーリー及び評価の視点について

資料1-2～1-6のとおり

資料1-2	森林の保全・再生の取組による事業効果、各事業の評価の流れ図
資料1-3	水源の森林づくり事業の推進の経緯等
資料1-4	順応的管理の主な実績
資料1-5	モニタリングデータについて
資料1-6	水源環境保全・再生かながわ県民会議の評価

5 今後のスケジュール（予定）

時期	内容
令和8年7月	事業モニターチーム検討会議（有識者委員による説明*） *本日の議論の結果を踏まえ、御説明いただく委員の選出をお願いします。
9月	第1回事業モニター（試行）の実施
10月	第1回事業モニター（試行）実施報告書の作成
12月	第77回施策調査専門委員会に置いて事業モニター結果の報告
令和9年4月～	令和8年度の試行結果を踏まえ、事業モニターの実施